

最優秀賞、優秀賞の提案内容をご紹介します！



優秀賞 B班

後列左から渡部美香さん（チューター：株式会社三菱地所設計）、小侯慎太郎さん（九州大学）、孙培昕さん（武蔵野美術大学造形研究科）、米川光咲さん（東京農業大学）、富士榮宏将さん（チューター：株式会社プレイスメディア）、前列左から小林拓斗さん（東京大学大学院）、福井昂平さん（法政大学大学院）

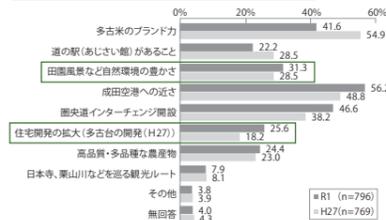


最優秀賞 E班

左から斎藤玲於奈さん（東海大学）、増田悟樹さん（東京農業大学）、福井新さん（法政大学大学院）、山根直菜さん（東京大学）、石斐さん（工学院大学）、大山奈津美さん（チューター：株式会社フィールドフォー・デザインオフィス）、坂本幹生さん（チューター：株式会社ランドスケープ・プラス）

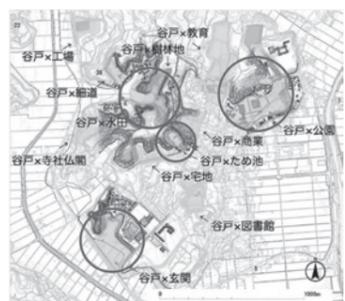
調査①「多古の人：多古にやってくる新たな人への思い」

【問】多古町が活かしていくべき強み（複数回答）



自然風景の豊かさや、開発に伴う新たな居住者の増加を強みと捉えている（一方で従来からの居住者との関係性=キワについて問題提起）

「多古のキワを極め続ける」
B班は、多古の人・環境・人口などさまざまな視点から多古町を調査しました。田んぼや川などを多古町の魅力的な風景として、これらの特徴を残しながら、多古町のキワを際立たせるといった提案をしました。



「多古と生きる 谷戸と生きる」
E班は、多古町の谷戸を対象に分析を行いました。かつての土地利用から谷戸の持つ可能性を読み取り、変化する時代のニーズに合わせた新たな谷戸利用を展開することで、谷戸の在り方を提案しました。

こちらから過去の作品が閲覧できます。



日本造園学会関東支部ホームページ

学生と見つける新たな可能性 — 学生デザインワークショップ —



外からの視線は、時に新しい発想を呼び込み、一気に流れを変えてしまうような無限の可能性を秘めています。9月18日には多古町を舞台に、公益財団法人日本造園学会関東支部主催の学生デザインワークショップ「サマースタジオが行われました。18回目を迎えた今回のワークショップのテーマは、『水と土と空と生きる』次世代になく多古町の風景「郊外2.0」です。成田空港の機能強化によるさまざまな開発や影響を受け、岐路に立つ多古町において、「水（雨・地下水・川・海）と「土（地形・水田・畑）」と「空（空港・気候・空気）」と生きることを再考し、風景や自然環境にとつてはマイナスとなり得る開発の影響を、プラスに変える方法について検討しました。

当日は、所属大学や専門分野が異なる学生がA・S・Fの6班に分かれ、社会人チューター（学生の指導・助言を行う若手実務者）とともに、検討した成果を発表し、審査員がそれぞれの成果を評価しました。

- ①発表に向けてのフィールドワーク
- ②作成した資料を使って発表する学生たち
- ③発表を真剣に聞く学生たち



結果は、E班の「多古と生きる 谷戸（※）と生きる」が最優秀賞、B班の「多古のキワを極め続ける」が優秀賞となりました。

どの班も専門分野の枠を超えて話し合い、新しい多古町の可能性を見出しました。今までの行政にはない発想が多く、今後の町政の運営において大変参考となるワークショップとなりました。

多古町の何気ない場所が、新たな魅力へと変わる。視点を広げることで広がる町の未来を感じることができました。

※谷戸とは、台地が浸食されて形成された谷状の地形。

未来を見据えたまちづくりへ

今回ご紹介した、20歳を迎える皆さん、町外の学生の皆さんが考える多古町の未来。そこには町の現在を知り、進むべき道への可能性を示す意見が多くありました。

多古町の今の姿を「知り」、長所は伸ばしながら、見えた課題を一つひとつ着実に解消していくことが重要です。それには、町民一人ひとりの意識と協力、オール多古町でまちづくりに取り組むことが必要です。

多古町では「広報たこ」や公式ホームページ、公式LINEなどで、さまざまな情報を皆さんにお届けしています。皆さんと町が現状を共有するために、これからも各種情報媒体をご覧いただき、お気軽にご意見をお寄せください。

公式ホームページ

公式LINE